

東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所
2022年度 パフォーマンス向上会議情報(2022年7月28日(木)分)

◆不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。
法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

2022年7月28日のパフォーマンス向上会議で審議された不適合は、下記のとおりです。

番号	不適合内容	グレード	発見日
1	<p>【6号機タービン建屋低圧電源盤の一次側絶縁抵抗値の低下について】 協力企業作業員が、点検作業において6号機タービン建屋低圧電源盤の絶縁抵抗測定を実施したところ、絶縁抵抗値の低下を確認。 調査の結果、一次側の絶縁不良と判明。 原因は、高湿度環境による絶縁抵抗不良と推定。 現在、仮電源盤を設置済み。 今後、当該低圧電源盤の清掃を実施。</p>	GⅢ	7月13日
2	<p>【G3タンクエリア西D7雨水回収タンク出口弁のグランド部からのにじみリークの確認について】 協力企業作業員が、G3タンクエリア西D7雨水回収タンク出口弁を開操作したところ、グランド部からのにじみリークを確認。 調査の結果、グランド部からのにじみは、当該弁が「全開」「全閉」位置では発生しておらず、弁操作中のみ発生していることを確認。 当該弁は通常「全閉」であり、弁操作時のにじみ程度のリークであるため、運用中は問題なし。 なお、当該弁は堰内に設置されており、リーク量が増加した場合でも堰内に滴下するため、外部への流出なし。 弁操作時はウエス等での拭き取りを行うこととし、今後、当該弁の点検修理を実施。</p>	GⅢ	7月22日
3	<p>【陸側遮水壁ブラインヘッダー管送り側流量計指示の不良について】 当直員が、免震重要棟集中監視室の監視盤において、陸側遮水壁設備ブラインヘッダー管の送り側流量計異常の警報発生を確認。 状況確認の結果、送り流量指示値と戻り流量指示値を比較し差異が確認された。 その後、保全部門で確認したところ、送り流量計の計器故障と判断。 送り流量指示計のみの不良であり、系統の運転に支障なし。 今後、送り流量計の交換を実施。</p>	GⅢ	7月26日